若年層における移動選択肢の多様性に関する基礎的分析

山口大学　正会員　○榊原　弘之　五洋建設　非会員　山本　純也

１．はじめに

本研究では，若年層における移動選択肢の多様性に関して，オンラインアンケート調査を実施する．若年層に関しては，車離れなど，選択肢集合の縮小につながる事例も報告されている．インターネットによる交通からの代替可能性を含め，調査の必要があると考えられる．

２．アンケート調査

（１）調査の対象

オンラインアンケート調査では現在，福岡県または山口県に居住している 20~39 歳の男女を対象とした．回答者の属性分布を**表-1** に示す．各県，性別，20・30 歳代の回答者数がほぼ同数となるように設定したが，山口県在住の 20 歳代男性のみ，サンプル獲得が困難となり，少数となっている．

（２）質問項目

オンラインアンケート調査における主な質問項目を**表-2** に示す．自家用車・自転車の保有状況，通勤・通学，食品の購入，洋服や靴の購入及び会食の各行動の際の常用の交通手段，常用手段が利用不可能となった場合の代替手段，並びに各行動の頻度を質問している．カッコ内に各手段の略称を示している．

（３）自家用車・自転車の保有状況

回答者の自家用車及び自転車の保有状況を**表-3**, **表-4** に示す．共に山口県の方が保有率は高い．

表-1　回答者の属性

回答者数	回答者総数　332 人 （福岡県：162 人，山口県：170 人）
男女比	男性：51.2% (170 人) 女性：48.8%(162 人)
年齢構成	山口県男性(20 歳代: 8.4%, 30 歳代:18.4%) 山口県女性(20 歳代: 12.0%, 30 歳代:12.3%) 福岡県男性(20 歳代: 12.0%, 30 歳代: 12.3%) 福岡県女性(20 歳代: 12.0%, 30 歳代 : 12.3%)
職業構成	会社員・公務員：48.5%，学生：7.2%, パート・アルバイト：20.8%, 自営業・農業：4.5% ， 専業主婦・主夫・無職：19.0%
婚姻	既婚 : 37.7%, 未婚 : 59.0%, 離別/死別 : 3.3%
子供	いる：31.0%，いない：69.0%

表-2 主な質問の概要

1.回答者の属性	年齢，性別，居住地，職業など
2.運転免許の保有状況と自家用車の利用状況	自家用車が自由に使えるかなど
3.自転車の保有状況	保有，非保有
4.常用の交通手段	自家用車(車), 鉄道(鉄), バス(バ), 送迎(送), バイク(二), 自転車(自), 徒歩(徒)，ネットショッピング(ネ), 配達(配), 諦める(諦)
5.代替の交通手段	

表-3 自家用車の保有状況

	免許・自家用車有	免許有・自家用車無	免許無	計
山口県	134	22	14	170
福岡県	90	56	16	162
総計	224	78	30	332

表-4 自転車の保有状況

	保有	非保有	計
山口県	138	32	170
福岡県	112	50	162
総計	250	82	332

表-5　決定木分析における目的変数と説明変数

目的変数	代替手段
説明変数	常用手段，性別，職業，自家用車保有状況，自転車保有状況

３．決定木分析

（１）決定木分析の説明

アンケート調査の結果を基に決定木分析を行った．本研究の決定木分析における，目的変数と説明変数を**表-5** に示す．次節以降に結果の一部を示す．

(2) 決定木分析の結果

a) 山口県　通勤・通学の代替手段（図 1）

回答者が最多となるのは Node5 であり，常用手段が自家用車または鉄道で自転車利用が可能な回答者である．このノードでは，最多の代替手段は自転車である．このノードでは，最多の代替手段は自転車である．通勤・通学の代替手段として自転車が多く選択さ

キーワード　若年層，選択肢多様性，オンラインアンケート調査

連絡先　〒755-8611　山口県宇部市常盤台 2-16-1　山口大学大学院創成科学研究科　ＴＥＬ0836-85-9355

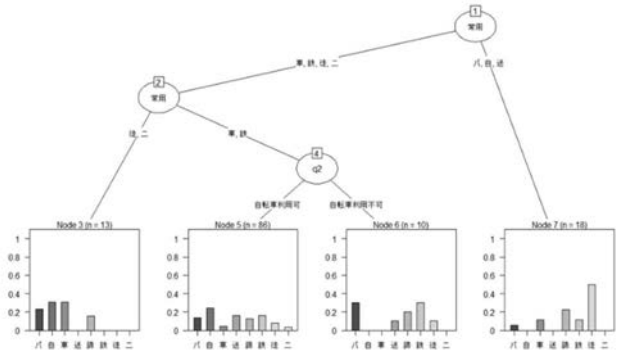

図1　山口県　通勤・通学

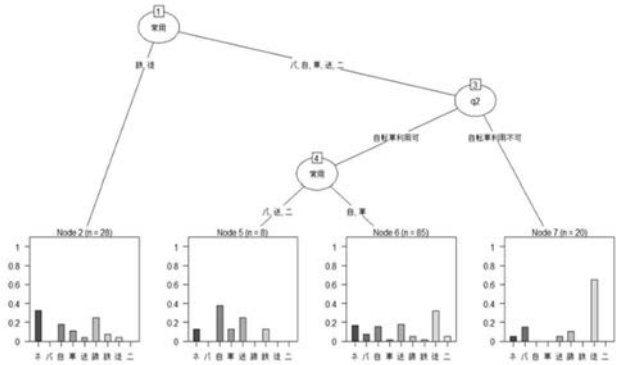

図2 福岡　食品購入

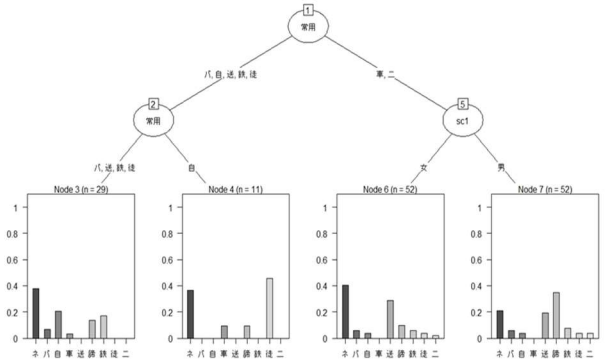

図3　山口県　洋服や靴購入

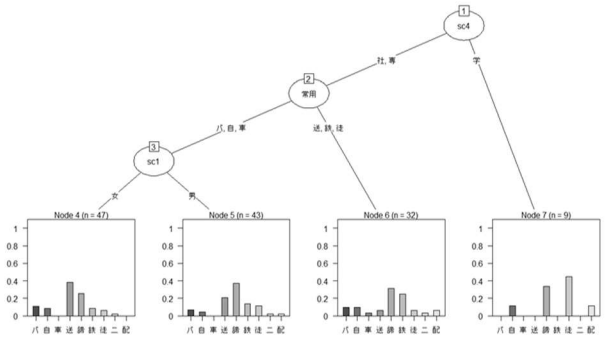

図4　山口県　会食

れるのが福岡県と比較した場合の山口県の特徴である．その理由としては，公共交通のサービス水準が相対的に低いことや，自宅から職場までの距離が比較的短いことが考えられる．

b）福岡県　食品購入の代替手段（図2）

回答者が最多となるのはNode6であり，常用手段は自家用車または自転車である．最多の代替手段は徒歩であり，徒歩で到達可能な範囲で食品購入が可能な環境に居住していると考えられる．Node7も同様である．一方，2番目に回答者数の多いNode2においては，「諦める」やネットショッピングの比率が比較的高い．Node2は常用手段が鉄道または徒歩での回答者の集合である．公共交通や徒歩が使えない状況では外出を断念する回答者が一定数存在することを示すものとも考えられる．Node2では代替手段としての自家用車の回答も少ない．

c）山口県　洋服や靴購入の代替手段（図3）

回答者数が最大となるのはNode6及びNode7であり，共に常用手段が自家用車またはバイクの回答者が性別で分類される．Node6（女性）の代替手段はネットショッピングが最も多く，Node7（男性）の回答は「諦める」が最も多かった．女性は男性と比べ，「（買い物自体を）諦める」を選択する人は少なく，ネットショッピング以外にも送迎を選択している人も多かった．

d）山口県　会食に行く際の代替手段（図4）

回答者数が最大となるのはNode4であり，学生以外の女性で常用手段がバス，自家用車，自転車の回答者である．その代替手段として送迎，次いで「諦める」が多かった．送迎が多い理由としては，一緒に会食をする人との相乗りが可能であるからと考えられる．一方，常用手段が同一の男性の集合であるNode5においては「諦める」が最多で，次いで送迎が多かった．

４．おわりに

本研究で得られた知見を以下に示す．①選択肢の多様性は公共交通の整備状況，本人の自家用車，自転車の利用可能性の他，環境条件にも依存する．②食品購入のような基礎的移動需要においても代替手段のないと回答する層は存在する．③特にファッション関係の買物においてネットショッピングは交通機関の代替手段となり得る．